

企業と連携した「プロジェクト型作業学習」の実施

今年4月から高等部の作業学習班のうち「窯業班」と「木工班」の生徒たちは、探究活動と作業学習を掛け合わせた「プロジェクト型作業学習」に挑戦してきました。

具体的には、飲食業(西海市)を起業する社長さんから食器類や値札スタンドの製作依頼を受け、9月中旬までに納品するというプロジェクトです。

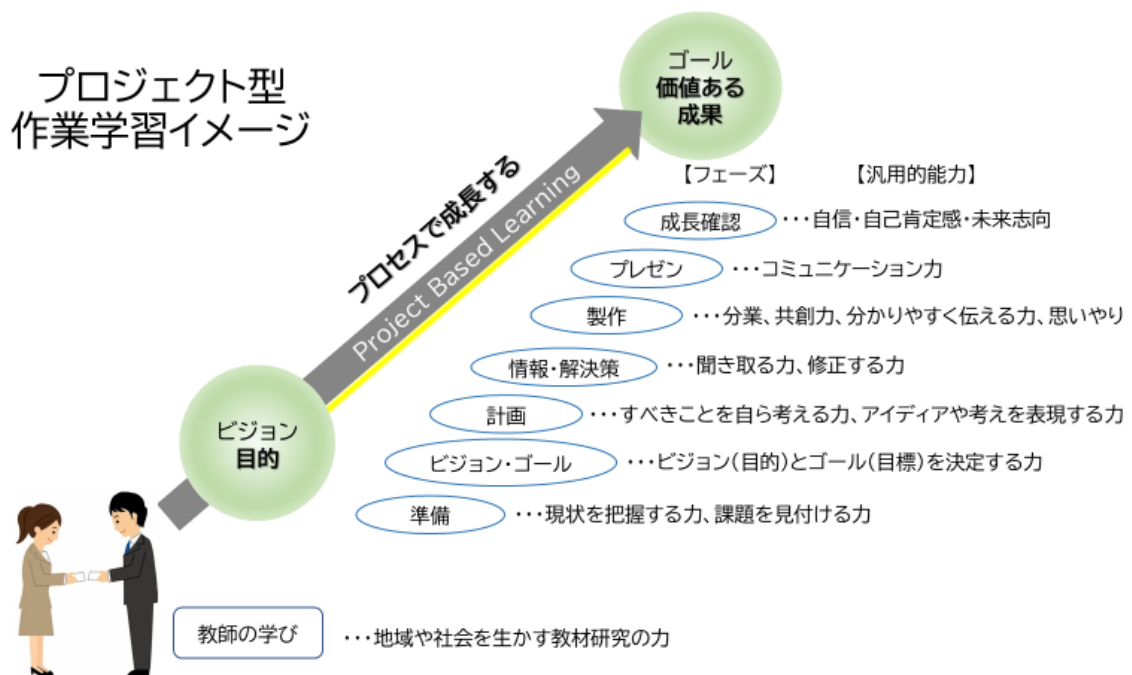
プロジェクト型のよさは、ビジョン(目的)とゴール(目標)が明確であり、生徒たちにとっても取組のイメージが描きやすいという点にあります。

また、作業班内のチームワークだけではなく、学校外の相手との『共創力』が磨かれていきました。

そして、プロジェクトのゴールでは、生徒自身が自分たちの活動が役に立ったという思いをもつことができ、自信や達成感、自己肯定感を高め、自分を大切に思い、生きようとするウェルビーイング*へとつながる実践でもありました。

「第四期 長崎県教育振興基本計画」の基本テーマは、『つながりが創る豊かな教育』です。まさに鶴南の「プロジェクト型作業学習」は、つながりが創る豊かな教育の具現化でした。この取り組みを持続可能なものとするために、これからも先生方と一緒に地域や社会を教材研究しながら、様々な「つながり」を求めていき、子どもたちの成長につながる厚みのある「かくなん」ブランドの教育を創っていきたいと考えています。

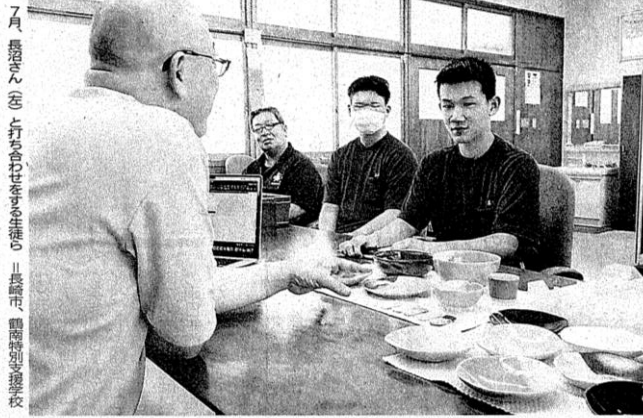
※ウェルビーイング…経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方



もっと自由な発想と挑戦を楽しむ境地で鶴南の教育を創る
- 「R6 年度 学校運営方針」でめざす! -

59・72・2226) 上五島(0959・42・0324)

「かくなん」ブランドあす納品



7月、長沼さん(左)と打ち合わせをする生徒ら。長崎県、鶴南特別支援学校

角打ち店開業で依頼受け

色鮮やかな小皿や丼、木製の値札スタンドには「かくなん」の焼き印。長崎県佐賀町の県立鶴南特別支援学校高等部が、西海市大瀬戸町で10月に角打ち店をオープンする同町の長沼智さん(50)から食器などの製作依頼を受け、12日に納品する。作業学習の一環として生徒が4月から取り組んだ。生徒らは「店で使ってもらえる」と開店を心待ちにする。



木材を削りて磨き上げ、焼き印を押しつけた値札スタンド



値札スタンドを削りて磨き上げる。本班、鶴南特別支援学校

鶴南特支高生徒が食器など

年が提案。長沼さんは「ブランドを上げていきましょう」と快諾した。製作は長沼さんのたつての希望で実現した。昨年末、脱サラして東京から帰郷し、実家「中瀬戸の空いた倉庫で角打ち店開業を計画。以前から特別支援学校で窯業などの作業学習があることを知っており「店」子どもたちが作った物を使いたい」とつてをたどり、同校に連絡。同校は探究活動と作業学習をかけ合わせた「プロジェクト型作業学習」として有償で引き受けた。作業学習は卒業後に働く力や集中力を養うため毎年度、全校生徒が工芸、サービスタなど6班に分かれ週7時間作業を行う。製作に当たったのは、このうち窯業班(8人)と木工班(6人)。窯業班は成形から校内の電気窯を使った焼成まで手がけ「鶴港窯」の名前で製作。木工班も本格的に製作しており、いずれもバザーなどで販売してきたが注文生産は初めてだった。4月末に長沼さんと生徒らが初めて会い、食器の色合いや細かい注文などを聞き取った。発注は食器が大きい、深さの異なる4種の皿計140個と丼10個、おちよこ20個など、横幅5センチの三角形のスタンド50個を作ることになった。7月上旬に進み具合を長沼さんが確認。納期も9月中旬に決まった。納期目前の9月4日、生徒たちは「ストリート」に汗を流した。窯業は血を磨く仕上げ作業に集中。木工班も値札スタンドをやすりで丁寧に磨き上げた。生徒たちは「求められて作るという気が出る」「一人一人が作ったものだと感じてほしい」と声を弾ませた。窯業班を指導する職員は「村恵さんは受注してから顔つきが変わった。『店で使ってもらえるんだ』と楽しみが湧いてくる」と見守る。分譲費の校長は「実際に近い状況の中で、期待に応えよう」と考えながら形にしていく。卒業後の就職先でも生かせる力になる」と期待を寄せた。12日、同校で納品式がある。(柴崎優衣)